

留寿都小学校学校便り

令和2年10月30日



発行責任者

松原 康雄

継続する大切さ

校長 松原 康雄

山の木々の色づきも深みを増し、秋の終わりを感じさせる季節となりました。周りの畠ではビートなどの収穫が行われています。学校でも農協青年部やポテトの会、留寿都高校等のご協力を得まして大豆や大根など多くの作物を収穫することができました。また、10月は実施を延期していました5年生の宿泊学習、6年生の修学旅行を相次いで行いました。仲間と寝食を共にしながら学び、体験する活動は子どもたちの成長に大きな影響を与える、かけがえのない思い出として心に残ったことだと思います。ご理解とご協力を頂きました保護者をはじめ各方面の方々に御礼申し上げます。

さて先日の全校朝会で、陸上少年団と野球少年団が今年度参加した大会で優勝や入賞した実績を披露し、表彰いたしました。学校以外の場でも留寿都小学校の児童が活躍をしていることを大変嬉しく思いました。日頃からの地道な練習の積み重ねが結果として表れ、子どもたちも大いに自信を付けたことと思います。今後もさらなる上を目指して努力を続けることを期待しています。またこれらの少年団だけでなく、太鼓や書道、家の仕事の手伝いや勉強など地道に頑張っている子どももいます。真剣に取り組む中で人は様々なことを経験し学んでいきます。それらが将来に役立つ場面が出てくることでしょう。子どもたちには何か打ち込めるものを見つけ取り組む経験を積んでほしいと願っています。



5年生宿泊学習

本来は9月上旬を予定していた、5年生の宿泊体験学習ですが、10月7・8日に延期しました。少し肌寒くなることから、例年行っている川と海の生き物探しは中止し、黒松内歌才ブナ林のトレッキングや、木工クラフトを楽しみました。宿泊は、黒松内町の歌才自然の家で、とてもきれいで静かなところでした。子供達にとっても、良い思い出となつたことでしょう。



6年生修学旅行

6年生は本来6月の予定だったのですが、10月下旬に延期になりました。日没が早くなつたことで、函館の夜景がとてもきれいだったそうです。（100回以上函館山の夜景を案内した添乗員さんが、ベスト3に入るほどのきれいさだったとのことです）

